くらし 文化部 075(241)6125 ✉ home@mb.kyoto-np.co.jp

「職親」で更生につなぐ

出所者・出院者に雇用提供

刑務所の出所者や少年院の出院者に働く場を提供し、更生を促す「職親プロジェクト」がスタートから12年となる。支援を受けたのは延べ1100人余りに上る。この取り組みを題材にしたドキュメンタリー映画「おまえの親になったるで」（北岸良枝監督）が各地の劇場や刑務所などで上映され、理解と協力の輪を広げている。

「おまえの親になったるで」の試写会に登壇した（右から）北岸良枝監督、草刈健太郎さん、中井政嗣さん。プロジェクトを応援する安倍昭恵さんの姿も＝東京都千代田区

求められる理解 偏見解消

プロジェクトは日本財団が助成し、民間が主導。出所者・出院者が再び罪を犯さないよう、企業経営者が「職の親」となって就労を助け、自立更生を後押しする。雇用主となる参加企業は全国で520社を突破した。

「なんで窃盗をしたん？」と問われ、「誰も相談する人がいない」と答える受刑者。乱れた家庭環境、殺伐とした人間関係の中で孤独や自暴自棄に陥り、罪を犯した経緯を告白する。更生の誓いに耳を傾けるカンサイ建装工業（大阪）の社長草刈健太郎さんは、自社で雇うことを約束し、親代わりの身元引受人にもなると伝える。同映画の一場面だ。

映画は草刈さんが出所者・出院者の更生のために奔走、苦闘する姿を映し出す。実の妹を殺害された過去があり、「なんで自分が」こうした状況をなんとかしたいという熱い思いで、経営者たちはがんばっています。社会の理解と支えが不可欠です」

プロジェクト報告冊子には、支援を受けて更生した人たちの「親として引き受けた以上、何度でも助ける」という社長の言葉で社会に戻って来られた」「本音で話してくれる社長との出会いをきっかけに、間違った常識で生きてきた自分が変わった」といった声が紹介されている。

日本財団のプロジェクト本部事務局長の原田公裕さんは出所者・出院者を巡り①当事者の更生意欲の向上②企業の受け入れ態勢の強化③社会的偏見の解消―がいっそう求められると指摘する。

「仕事を通じて社会に貢献し更生した人を、どうか社会の一員として認めていただきたい。これからもプロジェクトへの応援をお願いします」

映画「おまえの親になったるで」の上映会情報は公式ホームページで。

職親プロジェクトで千房に就職し、お好み焼きを調理する男性（右）

こまど

祖母のこと

中田久子

寒い季節になると思い出す。故郷、そして祖母と暮らした冬の日を。私の故郷は奈良の山間部。雪が30㌢ほど積もることもあった。

幼い頃のある日、雪がしんしんと降り、山々は一面銀世界であった。雪だるまやソリ遊びを終えた私は、家の中の土間に置かれた練炭火鉢へと向かった。

祖母は火鉢の番をするように座っていて、そこにはやかんがかけられ、蒸気が上がっていた。私は雪遊びでびしょぬれになった赤い毛糸の手袋を火鉢の縁で温めた。リウマチを患い、不自由なことも多かった祖母は、変形し固まった指で「冷たいやろう」と、冷え切った手を包んでくれた。

練炭の燠々と燃える炎の色とともに、幼かった頃の温かく、穏やかな日を思い出す。他の季節も、私は祖母と遊んで過ごした。そんな祖母は、私が中3の時に亡くなった。

今日は京都市にも今年初めての雪が降っている。祖母を思い出し、もっと「ありがとう」を伝えておけばよかったと涙した。

（京都市南区・61歳・主婦）

ほん

女子ひとり海外旅行最強ナビ【最新版】
山田静withひとり旅活性化委員会編

海外ひとり旅を愛する女性に向けた旅行指南書。スケジューリングのこつやお薦めの持ち物、旅を楽しむ心構えなどを、熟練の旅人が詳しく解説する。2018年刊行の内容に、旅行ジャーナリスト5人のコラムや最近の旅行アプリ情報などを加えた最新版。

近年の円安や物価高を背景に、海外旅行は以前よりもハードルが高くなっている。そうした中でも、工夫次第では予算を絞って思い出に残る旅を計画することは可能だ。

本書では、乗り継ぎ便を増やすことで航空券を安くするテクニックや、安全に配慮した格安ホテルの選び方など、低予算で楽しむこつを紹介。「アジアを1カ月旅する荷物」「旅先でのおしゃれ服」など、女性目線を重視する。他にも、注意すべき感染症の一覧や、持参したい薬や安全対策グッズの情報は、バックパッカー初心者だけでなく旅慣れた人も十分参考になる。（辰巳出版・1760円）

SNSは情報の偏り強化

痩せが唯一の美しさであるかのような情報があふれている

細い＝きれいは本当ですか？

田村好史

❾ 環境のプレッシャー

現代社会では、多くの若い女性が「痩せること」で美しくなり、自信を持とうとしているようです。私が代表幹事を務めるマイウエルボディ協議会の調査によると、女子高校生・大学生の4～5割が、痩せる目的として「自分に自信を持つため」「きれいになるため」を挙げています。

この背景には、痩せたい気持ちを過剰に作り出してしまう社会があり、前回お伝えした家族や友人の言葉のほかに、メディアの影響が特に大きいと考えられます。

SNSやファッション雑誌、テレビ番組では、細身のモデルや芸能人が取り上げられることが多いです。SNSには、利用者が興味を持ちそうな動画を表示するアルゴリズムが搭載されていますから、情報の偏りが強まり、痩せていることが唯一の美しさの基準であるかのように錯覚させることがあります。

このような情報環境は若い女性たちに過度なプレッシャーを与え、以前お伝えした「160㌢、45㌔」のような偏った理想の体形を追い求める原因となっていると考えられます。

同じ調査で、6割以上の女性が「痩せるための努力は苦しい」「太ってしまうことが怖い」「周りの人の体形といつも比較してしまう」と感じていることも明らかになりました。多くの女性は「こんなふうになりたい」といったポジティブな動機で痩せたいと考えているだけではなく、プレッシャーも感じている様子がうかがえます。男性からのプレッシャーも大きく影響していると思います。

私たちは、情報に対して批判的に考え、現状認識の偏りに気が付くことが大切です。SNSが生活に深く入り込んでいるこの時代には、その力は一層求められそうです。（順天堂大教授、イラストはカモシタハヤト）

「爪の悩み」4～5割

刃物メーカーの貝印（東京都千代田区）が行った意識調査で、爪の悩みがある人は4～5割いた。

昨年12月、全国の15～69歳の男女1200人に実施。爪の悩みが「ある」「どちらかといえばある」と回答した人は、手が計41・3％、足が計49・5％。

内容は、手が「割れやすい、欠けやすい」「縦筋が目立つ」「ささくれがある」の順に多かった。足では「巻き爪」「形が悪い」「爪が分厚い」だった。

爪切りの程度については、「白い部分は残さない」と答えたのが、男性で38・3％、女性で19・2％いた。

きょうの料理

2人分

白菜のホットサラダ 黒酢風味

白菜200㌘、ショウガ5㌘、黒酢大さじ1、白ごま大さじ½を用意します。白菜は5㌢幅の千切りにします。ショウガは皮をむいて2㌢長さの千切りにします。

耐熱の器に白菜とショウガを入れ、酒大さじ½を振りかけ、ラップをゆるくかけて電子レンジ（600㍗）に4、5分かけます。軟らかくなったらざるにあげます。

黒酢、しょうゆ小さじ½、砂糖大さじ½、塩小さじ⅙、ごま油大さじ½、白ごまを合わせて白菜とショウガをあえ、器に盛り付けます。

（1人78㌔㌍、塩分0・8㌘）